

専門委員の変更について

○ 専門委員（経済・テクノロジー委員）

(敬称略)

新	旧	新委員 所属先役職等
井伊 基之	篠原 弘道	日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 (技術戦略担当・国際標準化担当・ 技術企画部門長)



資料 2

専門委員会 共通資料（2018年度）

1. 2018年の主な活動報告について
2. 東京2020参画プログラムの現状について
3. アクション&レガシーファイナルレポートについて
4. おわりに（レガシー・レポーティング・フレームワーク）

東京2020大会の概要

競技日程

オリンピック(17日間)

7月24日
~8月9日

パラリンピック(13日間)

8月25日
~9月6日

選手数

オリンピック

11,090人

パラリンピック

4,400人

競技数・種目数

オリンピック

33競技 339種目

パラリンピック

22競技 540種目

会場

全数

43会場

うち

都外

18会場



職員数

現在(2018年12月時点)

2.0千人

大会時(予定)

8.0千人

ボランティア

11万人以上

〈内訳〉

大会ボランティア8万人

都市ボランティア3万人以上

2018年の主な活動報告事項

1. 競技会場及び競技スケジュールについて
2. 開会式・閉会式について
3. 聖火リレー・聖火台について
4. 東京2020大会マスコット決定
5. ボランティアについて
6. 大会チケットについて
7. 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」
8. 機運醸成に向けた主な取組み
9. 復興に関する主な取組み
10. 大会予算V3

1-1) 競技会場

- ・ 競技は東京1964大会のレガシーを引き継ぐ**ヘリテッジゾーン**、都市の未来を象徴する**ベイゾーン**のほか、地方会場で実施。
- ・ 2018年5月までに新たに競技会場が決定され、最終的にオリンピックは42会場（33競技）、パラリンピックは21会場（22競技）で確定。
- ・ 青海、お台場、有明地区において、祝祭空間を創出するアーバンクラスター構想が進展。
- ・ 晴海に選手団が宿泊する選手村を建設。宿泊施設以外にもオフィシャルストア・ヘアサロン・雑貨店、総合診療所、スポーツジム、ダイニングホール等を整備。

<競技会場例>

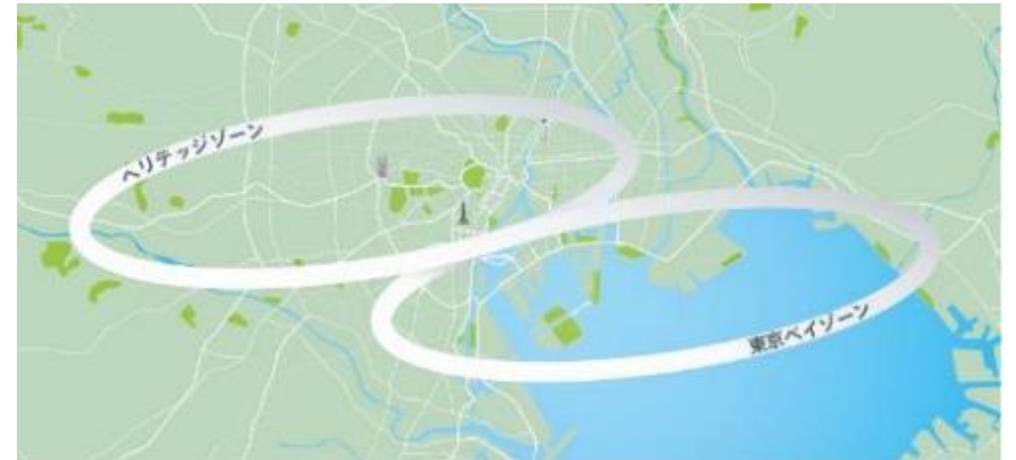
福島あづま球場（野球・ソフトボール）



有明BMXコース完成予想図（自転車競技・スケートボード）



会場詳細は、東京2020組織委HPを参照
<https://tokyo2020.org/jp/games/venue/>



1-2) 競技スケジュール(オリンピック)

競技スケジュールの策定

- ・ オリンピック各競技のセッションスケジュールを公表(2018年7月、9月、12月)。
- ・ スケジュールの詳細(種目ごとの日程など)を現在策定中。

主な競技スケジュール



○競泳
7月25日(土)～8月2日(日)



○体操競技
7月25日(土)～7月30日(木)
8月2日(日)～8月4日(火)



○ラグビー
7月27日(月)～8月1日(土)

- ・ 19日間に及ぶ、史上最多33競技339種目を42の競技会場で実施。
- ・ 日本各地で競技が行われ、より多くの方々に大会の熱気を感じて頂く。

1-3) 競技スケジュール (パラリンピック)

競技スケジュールの策定

史上最多4,400名※の世界のパラリンピアンによる、12日間の戦いのセッションスケジュールが決定(2018年10月)。

主な競技スケジュール



○車いすテニス
8月28日(金)～9月5日(土)



○ウィルチェアーラグビー
8月26日(水)～8月30日(日)



○ゴールボール
8月26日(水)～9月4日(金)

- ・ 8月25日の開会式翌日から9月6日の閉幕まで、12日間にわたり22競技540種目が21会場で実施。
- ・ 大会全体を通じて盛り上がりが続くよう、人気競技がバランスよく配置。

※選手数の上限

2) 開会式・閉会式について

4式典を一体と捉え、統一あるものとするために全体のプラン・ストーリーを作成する。

<4式典のあり方>

【オリンピック開会式】

- ・国内外からの注目度が非常に高い式典であり、世界から集うアスリートや観客を歓待する。
- ・東京2020大会の幕開けの式典として4つの式典の萌芽である。
- ・東京2020大会の担う歴史的意義や社会的意義、招致時のコンセプトに鑑みて4式典を貫くポジティブなメッセージを世界に発信する。

【オリンピック閉会式】

- ・競技を終えたアスリートの健闘を称える。また、アスリートに限らず、人々の心に感動を残した方々も讃えたい。
- ・アスリートだけでなく観客も巻き込み、国を超えた一体感を生み出す。
- ・その熱気と興奮を、続いて開催されるパラリンピックへと引き継ぐ。

【パラリンピック開会式】

- ・東京は二度目の夏季パラリンピックを開催する史上初の都市であり、中でも開会式は世界中の注目を集める機会である。
- ・違いを認め合い、支え合い、活かしあうことで、多様で平等な共生社会を目指すことを世界に伝える。
- ・多様なものを様々にかけ合わせることで、既成概念を超えた新しい可能性を探り、人々の意識を変えるきっかけにする。

【パラリンピック閉会式】

- ・パラリンピックのフィナーレであるとともに、東京2020大会の全体を締めくくるフィナーレでもある。
- ・持続可能な社会に向けて、「和」の精神に基づき、自然や人間社会がバランスをとり、共存していく新しい時代のスタートラインとする。
- ・世界の調和と明るい未来への可能性を示し、子どもたちや若い世代への継承の場とする。

<演出企画の実施体制>

氏名	肩書等	制作体制
野村萬斎	狂言師	チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（東京2020大会総合）
山崎貴	映画監督	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（オリンピック担当）
佐々木宏	クリエイティブ・ディレクター	エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター（パラリンピック担当）

氏名	肩書等	制作体制
川村元気	映画プロデューサー／小説家	クリエイティブ・ディレクター（東京2020総合チームメンバー）
来栖良依	クリエイティブプロデューサー クリエイティブディレクター	
椎名林檎	演出家・音楽家	
菅野薫	クリエイティブディレクター クリエイティブテクノロジスト	
MIKIKO	演出振付家	

3-1) 聖火リレーについて

東京2020オリンピック聖火リレー

コンセプト 「希望の道を、つなごう。 Hope Lights Our Way」

ギリシャ聖火式から日本に聖火が到着するまで

(参考) 東京2020オリンピック聖火リレー 各都道府県 実施日一覧

3/12(木)
ギリシャ古代オリンピア市 聖火採火式

3/12(木)~3/19(木)
ギリシャ国内聖火リレー

3/19(木)
ギリシャアテネ市にて聖火引継式

3/20(金)
宮城県の航空自衛隊松島基地に到着

3/20(金)~25(水)
宮城県・岩手県・福島県で「復興の火」として
展示



福島県から日本全国を回る

東京2020オリンピック聖火リレーがスタート!

都道府県名	日 程	都道府県名	日 程	都道府県名	日 程
① 福島県	3/26(木)~3/28(土)	⑱ 鹿児島県	4/28(火)~4/29(水)	⑳ 富山県	6/3(水)~6/4(木)
② 栃木県	3/29(日)~3/30(月)	⑲ 沖縄県	5/2(土)~5/3(日)	㉑ 新潟県	6/5(金)~6/6(土)
③ 群馬県	3/31(火)~4/1(水)	⑳ 熊本県	5/6(水)~5/7(木)	㉒ 山形県	6/7(日)~6/8(月)
④ 長野県	4/2(木)~4/3(金)	㉓ 長崎県	5/8(金)~5/9(土)	㉓ 秋田県	6/9(火)~6/10(水)
⑤ 岐阜県	4/4(土)~4/5(日)	㉔ 佐賀県	5/10(日)~5/11(月)	㉔ 青森県	6/11(木)~6/12(金)
⑥ 愛知県	4/6(月)~4/7(火)	㉕ 福岡県	5/12(火)~5/13(水)	㉕ 北海道	6/14(日)~6/15(月)
⑦ 三重県	4/8(水)~4/9(木)	㉖ 山口県	5/14(木)~5/15(金)	㉖ 岩手県	6/17(水)~6/19(金)
⑧ 和歌山県	4/10(金)~4/11(土)	㉗ 島根県	5/16(土)~5/17(日)	㉗ 宮城県	6/20(土)~6/22(月)
⑨ 奈良県	4/12(日)~4/13(月)	㉘ 広島県	5/18(月)~5/19(火)	㉘ 静岡県	6/24(水)~6/26(金)
⑩ 大阪府	4/14(火)~4/15(水)	㉙ 岡山県	5/20(水)~5/21(木)	㉙ 山梨県	6/27(土)~6/28(日)
⑪ 徳島県	4/16(木)~4/17(金)	㉚ 鳥取県	5/22(金)~5/23(土)	㉚ 神奈川県	6/29(月)~7/1(水)
⑫ 香川県	4/18(土)~4/19(日)	㉛ 兵庫県	5/24(日)~5/25(月)	㉛ 千葉県	7/2(木)~7/4(土)
⑬ 高知県	4/20(月)~4/21(火)	㉜ 京都府	5/26(火)~5/27(水)	㉜ 茨城県	7/5(日)~7/6(月)
⑭ 愛媛県	4/22(水)~4/23(木)	㉝ 滋賀県	5/28(木)~5/29(金)	㉝ 埼玉県	7/7(火)~7/9(木)
⑮ 大分県	4/24(金)~4/25(土)	㉞ 福井県	5/30(土)~5/31(日)	㉞ 東京都	7/10(金)~7/24(金)
⑯ 宮崎県	4/26(日)~4/27(月)	㉟ 石川県	6/1(月)~6/2(火)		

- 都道府県の実施日数について、開催都市東京都については15日を設定。
- 東日本大震災被災3県(岩手、宮城、福島)、複数種目を実施する4県(埼玉、千葉、神奈川、静岡)については、各県3日を設定。
- 上記都県以外は各道府県2日と設定。(移動日を含め合計121日)

東京2020パラリンピック聖火リレー

コンセプト 「あなたは、きっと、誰かの光だ。 Share Your Light」

- 開催都市東京都、パラリンピック競技開催県(埼玉県、千葉県、静岡県)においてトーチで火をつなぐリレーを実施。
- 4都県を除く43道府県については、採火などを通じてなるべく多くの道府県に参画いただけるように今後調整。

3-2) 聖火台について

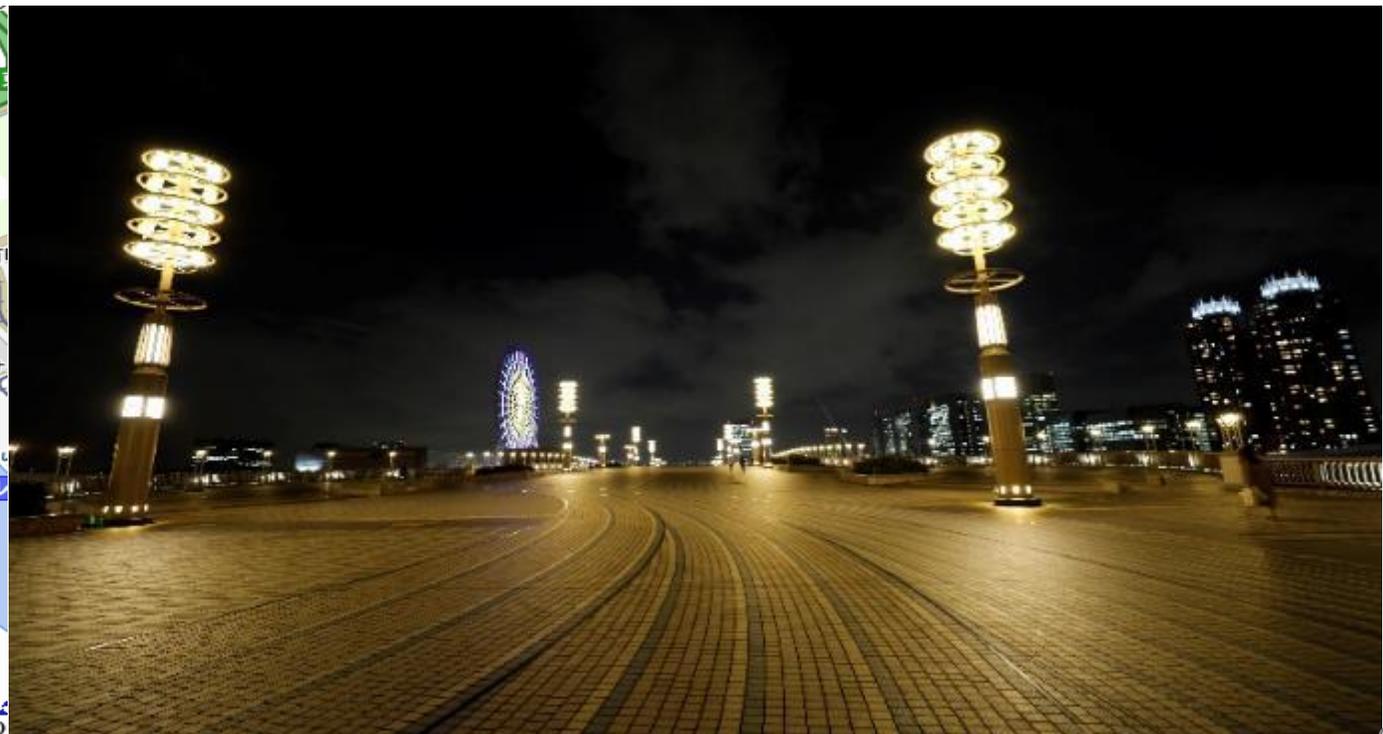
【製作台数】

式典用と競技期間用の2台の聖火台を製作する。

【競技期間中の設置場所について】

東京臨海部夢の大橋有明側を聖火台設置場所候補地としてIOCへ提案。

〈設置場所〉 東京臨海部 夢の大橋 有明側 (江東区有明3丁目付近)



4-1) 東京2020大会マスコット決定

史上初、大会マスコットを小学生の投票で決定

(小学部を置く特別支援学校や海外の日本人学校、国内の外国人学校、不登校児童が通う施設等を含む)

マスコット決定までの流れ

2017年8/1~14 大会マスコット募集 2,042件応募

12/7 大会マスコット候補 3案発表

12/11~2018年 全国の小学校での、学級単位での投票

2/22

【投票総数】 16,769学校、205,755学級

(全国の小学校の約8割)



4-2) 東京2020大会マスコット決定

- ・2018年7月22日、マスコットの名前が決定し、正式にデビュー。
- ・その後、2年前イベント(7月24日オリンピック、8月25日パラリンピック)や、アスリートと共に実施する競技体験イベントといった様々な場面でマスコットが登場。



伝統と近未来がひとつになった
温故知新なキャラクター。

伝統を大切にしながら、つねに最新情報もキャッチしています。

正義感が強く運動神経バツグンで、どんな場所にも瞬間移動できます。

伝統の市松模様と近未来的な世界観から生まれました。

○名前の由来

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠(とわ)」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。

東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。



ミライトワ
MIRAITOWA



ソメイティ
SOMEITY

桜の触角と超能力を持つクールなキャラクター。

いつもは物静かなのに、いざとなるとパワフル。

強い信念と自然を愛する優しさがあり、石や風と話したり、見るだけで物を動かします。

市松模様と桜を力強く表現して生まれました。

○名前の由来

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれました。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づけます。

5-1) ボランティアについて

・大会ボランティアは、競技会場や選手村、その他大会関連施設で、観客サービスや競技運営のサポート、メディアのサポート等、大会運営に直接携わる活動を実施。

・応募完了者数204,680人
(大会ボランティアマイページ登録者数262,437人)

- ・男女比:男性36%、女性64%
- ・国籍:日本国籍64%、日本国籍以外36%
- ・11日以上の活動を希望する方が6割を超える
- ・各世代バランスよく応募

項目	大会ボランティア募集要項 (抜粋)
募集人数	80,000人
応募に当たって	2002年4月1日以前に生まれた方 日本国籍又は日本に滞在する在留資格を有する方
応募期間	2018年9月26日～12月21日 (視覚に制約のある方等は除く)
活動分野と人数	活動分野、主な活動内容、人数の目安
役割等の決定方法	希望する役割等と実際の役割等のマッチングにより決定。 マッチング不成立の際は、2019年9月頃に通知
活動期間・時間	10日以上を基本、休憩・待機時間を含む1日8時間程度
活動時にお渡しする物品等	ユニフォーム、活動中の飲食、ボランティア活動向けの保険、活動期間中における滞在先から会場までの交通費相当として1,000円/日

※都市ボランティアについては、都及び関係自治体で募集

5-2) ボランティアについて

・ボランティアのネーミング

- ・大会の顔となるボランティアについては、愛称（ネーミング）をつけるのが慣例。
※ロンドン 大会）ゲームズメーカー、都市）ロンドンアンバサダー
- ・東京大会では、参画を促す観点からボランティア応募者による投票を実施。
- ・投票期間：12月12日（水）～1月20日（日）
- ・最終案発表：1月28日（月） フィールド キャスト/シティ キャストに決定
- ・ネーミングは、大会ボランティアを含む大会スタッフ及び都市ボランティアのネーミング。

大会スタッフ・ボランティア ネーミング

都市ボランティア ネーミング

Field Cast

フィールド キャスト

City Cast

シティ キャスト

■競技場などで選手と関わりながら活躍する人、そして、競技場と競技場を結ぶ街でみなさんと関わりながら活躍する人がいます。ボランティアひとりひとりに、大会を盛り上げる重要な役割を担ってほしい。そんな願いをキャスト（配役）という言葉に込めました。

・ボランティアのユニフォーム

「大会スタッフ・都市ボランティアのユニフォームデザイン選考委員会」を設置し、デザイン選考中

※（最終選考）2019年3月下旬

6) 大会チケットについて

史上最大級のチケットティング・イベント

(プロ野球1球団の4~5年分のチケットを約1ヶ月間で取扱うプロジェクト)

- 2018年7月から東京2020大会公式チケット販売サイトでチケットを購入するための、TOKYO 2020 IDの登録開始
- チケット発売は2019年春以降

	開会式	閉会式	競技一般チケット
オリンピック	12,000円~300,000円	12,000円~220,000円	2,500円~130,000円
パラリンピック	8,000円~150,000円	8,000円~90,000円	900円~7,000円

過去大会のチケット規模(概算数)

ロンドン大会 1037億円 / 1080万枚
リオ大会 509億円 / 821万枚

東京大会のチケット規模(招致ベース)

オリンピック 772億円 / 780万枚
パラリンピック 48億円 / 230万枚
合計 820億円 / 1010万枚



※チケット枚数・価格等については変更の可能性あり。

『チケット完売・売上の最大化』と『フルスタジアムの実現』の両立がポイント

7) 機運醸成に向けた主な取組み

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

使用済み携帯電話等の小型家電から抽出したリサイクル金属で東京2020大会のメダルを製作するプロジェクトを実施。このプロジェクトを通じて、金・銀・銅あわせて約5,000個のメダルを製作予定。

【メダル製造に必要な金属の確保状況】

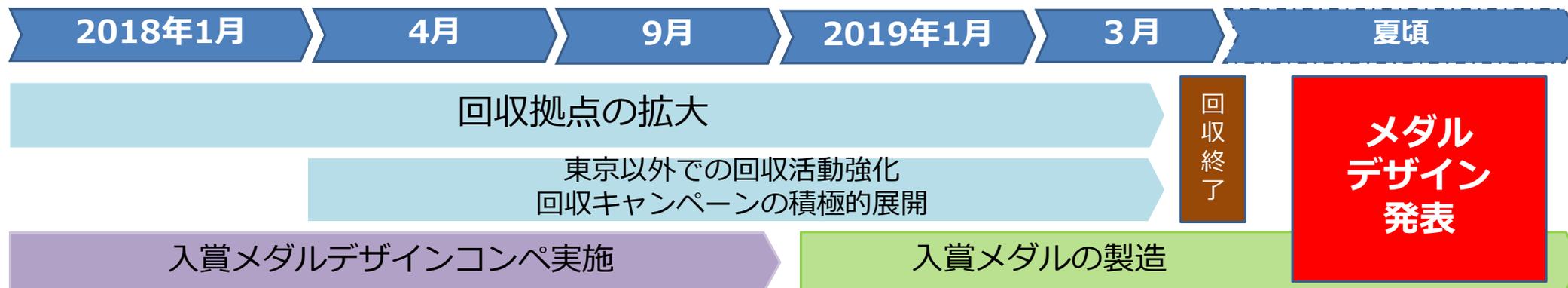


※最終的な納入量に対する納入済み金属量および2018年10月末までの小型家電等の回収量に基づく納入見込み量の合計の割合

※銅については2018年6月までの回収量で100%を達成

- 全体の約9割にあたる1,594の自治体、パートナー企業等が回収に参加
- メダル製作に必要な金属量を確保できる見通しが立ったため、2019年3月31日を持って回収を終了
- 2019年夏頃に予定しているデザイン発表に向けて、メダルデザインコンペティション(421名エントリー)をはじめ、平面デザイン審査や、立体デザイン審査を複数回実施。

【スケジュール(イメージ)】



8-1) 機運醸成に向けた主な取組み

一人でも多くの方が参画し、大会をきっかけにした成果を未来につなげるため、オリンピック・パラリンピックの機運を醸成。

主なイベント	取組内容
東京2020参画プログラム	様々な組織・団体が東京2020大会の盛り上げ、大会後のレガシー創出を目指し、2020年に向けてオールジャパンで取り組む参加型のプログラムを実施（2016年10月～）。
東京2020 NIPPONフェスティバル	世界から注目が集まる時期に東京2020大会公式文化プログラムとして、我が国の誇る文化を国内外に強く発信（2020年4月頃～）。
開幕まであと2年！ 2 Years to Go！	カウントダウンセレモニーを行い、開催まで2年の節目を祝い一体感を強化（2018年7月・8月）。
東京五輪音頭-2020-	1963年に三波春夫さんをはじめ多くの方々に歌い継がれてきた東京五輪音頭を現代版にリメイク。夏祭りの会場から盛り上げ（2017年7月～）。
フラッグツアー	東京の市区町村を巡ったフラッグと共に、日本全国にオリンピック・パラリンピックの価値を伝達（2016年10月～）。

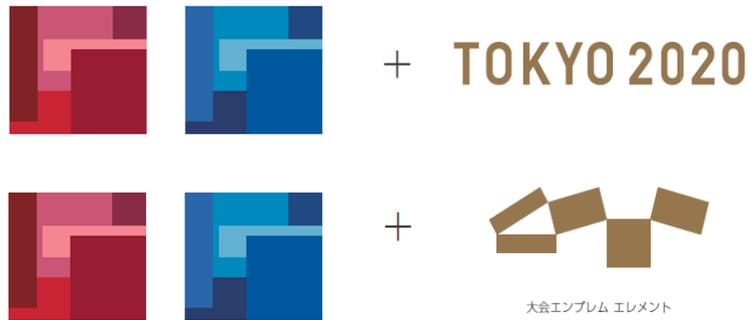


8-2) 機運醸成に向けた主な取組み

コアグラフィックスの決定

コアグラフィックスは、会場装飾、都市装飾以外にも、競技備品やチケット等広く展開され、大会を印象付けるデザインとなります。今後、コアグラフィックスを展開させたデザインの装飾等は、2019年春頃実装を行う予定です。

Tokyo2020コアグラフィックス



Tokyo2020横型装飾バナー 展開例



Tokyo2020縦型装飾バナー 展開例



コアグラフィックスのデザインモチーフとして"かさねの色目"を用います。

「かさねの色目」とは、十二単（じゅうにひとえ）に代表される色の組み合わせのひとつで、日本の四季折々の自然の色合いを重ね合わせた、日本の美や美意識を象徴する文化のひとつと言えます。

8-3) 機運醸成に向けた主な取組み

国連とのSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名

11月14日、国際連合と東京2020大会を通じたSDGsの推進協力に関する基本合意書へ署名しました。国際連合とSDGsについて基本合意書を締結するのは、歴代のオリンピック、パラリンピック組織委員会として初めてのこととなります。



8-4) 機運醸成に向けた主な取り組み

東京2020オリンピック公式映画の監督に河瀬直美さんが就任

河瀬 直美 1969年 奈良県生まれ

(主な作品)

「萌の朱雀」 **カンヌ映画祭カメラドール(新人監督賞)**

「火垂」 **ロカルノ国際映画祭国際批評家連盟賞
ヨーロッパ国際芸術映画連盟賞**

「殞の森」 **カンヌ映画祭グランプリ (審査員特別大賞)**

「あん」 **バリャドリッド国際映画祭最優秀監督賞
バレッタ映画祭最優秀作品賞**

「光」 **カンヌ国際映画祭エキュメニカル賞**



9) 復興に関する主な取組み

オリンピック聖火リレー

- ・オリンピック聖火リレーの出発地を福島県とするとともに、東日本大震災の被災3県（岩手、宮城、福島）については、各県3日に設定。
- ・聖火リレー開催に先立ち、ギリシャで採火した聖火を「復興の火」として被災3件で順次展示。

福島あづま球場・宮城スタジアム

- ・福島あづま球場で野球・ソフトボールを実施。
- ・宮城スタジアムでサッカーを実施。

東京2020理事会

- ・福島県（ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ）で理事会を開催。同日、理事会に先立ち、3県関係者を交えた意見交換会を実施（2018年7月）。

スポーツの力で被災地を応援 ～若手アスリート参画プロジェクト～

被災地で行われたイベントにアスリートを派遣し、スポーツ等を通して、被災地の子どもたちとの交流を行った。



復興のモニュメント

- ・「感謝・応援～支援への感謝や選手への応援を伝えたい～」。
 - ・「感謝・感動～応援への感謝やスポーツの持つ力を被災地に届ける～」。
- をコンセプトにモニュメントを製作予定。

ワールドプレスブリーフィング公式レセプション

国内外のプレスなどに対し、東京2020大会の準備状況などの意見交換を実施し、被災3県の食材を活用した夕食会を実施（2018年9月）。

大会を通じた取組例（東京都と共催）

フラッグハンドオーバーセレモニー

- ・世界中の人々からの支援への感謝を発信



ジャパンハウスでの発信

- ・元気を取り戻しつつある東北の姿を紹介



リオから世界へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市
- ・宮城県仙台市
- ・福島県福島市



平昌から被災地へ

ライブサイト

- ・岩手県盛岡市
- ・宮城県仙台市
- ・福島県郡山市
- ・熊本県熊本市



10) 大会経費V3

- 大会経費V3を発表。(2018.12.21) (V2と同額)
- 東京都と国が負担するその他の経費も、V2に引き続き7,500億円となっており、組織委員会とその他の経費を合わせた大会経費V3の総額は1兆3,500億円で、V2と同額。

【参考】経費分担試算(V3予算)

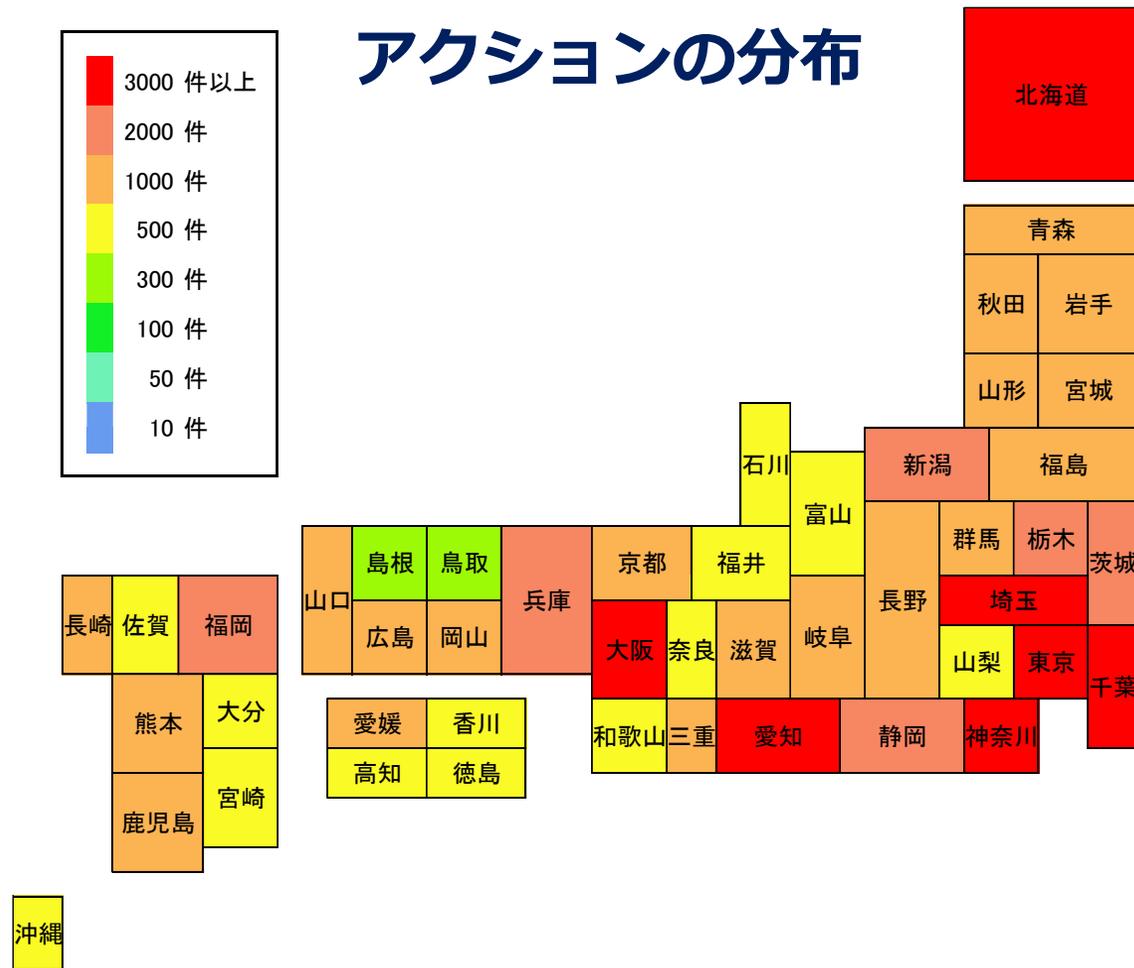
項目	組織委員会	東京都	国	合計
恒久施設	—	2,250億円	1,200億円	3,450億円
仮設等	950億円	2,100億円		
エネルギーインフラ	150億円	250億円	200億円	4,650億円
テクノロジー	700億円	300億円		
会場関係小計	1,800億円	4,900億円	1,400億円	8,100億円
	(400億円)	(200億円)	(200億円)	(800億円)
輸送	350億円	250億円		
セキュリティ	200億円	750億円		
オペレーション	1,050億円	100億円	100億円	5,400億円
管理・広報	650億円	0億円		
マーケティング	1,250億円	0億円		
その他	700億円	0億円		
大会関係小計	4,200億円	1,100億円	100億円	5,400億円
	(200億円)	(100億円)	(100億円)	(400億円)
計	6,000億円	6,000億円	1,500億円	13,500億円
	(600億円)	(300億円)	(300億円)	(1,200億円)

(注1) このほかに予備費1,000億円~3,000億円があります。これにより、予期せずに発生し得る、緊急に対応すべき事態等に対処します。

(注2) () は、うちパラリンピック経費分です。

2. 参画プログラム ①オールジャパンでの参画状況

- 2019年3月時点で、**約94,600件** のアクションを認証
- 全国へと広がる認証アクションへの参加人数は、**約6,700万人!!**



2. 参画プログラム ②アクション事例

経済・
テクノロジー

CEATEC 東京2020特別カンファレンス、ブース出展

○実施日

2018年10月16日（火）～10月19日（金）

○内 容

・ CEATEC JAPANを2020年に向けたテクノロジーのショーケースと位置づけ、本年は組織委員会のみならず、政府や経済界とコラボレーションをしたカンファレンスを実施。

モデレーター：大田弘子委員長

・ 今年度末までに行う、都市鉱山からメダルを作るプロジェクトの金属回収ブースを設置し、東京2020大会へのオールジャパンの取組を知ってもらうとともに、来場者・出展者も参加をできる場とした。



2. 参画プログラム ②アクション事例

経済・
テクノロジー

多言語対応・ICT化推進フォーラム

- 実施日：2018年12月20日（木）
- 主催：東京都（多言語対応協議会）
- 内容：多言語対応の先進事例を広く共有・発信するとともに、多言語対応に役立つICT(情報通信技術)の紹介を通じて、今後の取組の推進に繋げていく。
- 参加者：約900人

【主催者報告】

多言語対応協議会構成団体や都内区市町村等に対して多言語対応に関する先進的な取組やICT（情報通信技術）の情報を提供することで、東京2020大会に向けて多言語対応の推進を図ることができた。



2. 参画プログラム ②アクション事例

2020TDM推進プロジェクト

- ・大会時、多くの選手や観客の来訪が見込まれ、これにより発生する交通から、道路、鉄道に大きな渋滞や混雑が生じることが予想されている。
- ・このため、何も交通対策を行わないと、人やモノの移動が制約を受け、都市活動が滞る可能性がある。

〈大会時に起こり得ることの例〉・スーパーやコンビニ等に商品が届かない・始業時間や商談、打合せの時間に間に合わない 等

大会時の交通混雑を見据えた回避行動の準備を企業や市民に呼び掛ける

【混雑回避のための呼び掛ける具体内容：（人の流れ）時差ビズ、テレワーク、（物の流れ）配送の時間変更、ルートの変更 等】

2020TDM推進プロジェクト（事務局：東京都、内閣官房、東京2020組織委員会）

1. 東京2020公認プログラムを活用した取組

1) TDMを推進する業界団体の輪を広げる

経済団体ほか、運輸・港湾、バス・鉄道、流通、小売り、製造等の様々な業界団体の参画を拡大していく。

2) 業界団体によるTDM推進と所属企業への取組促進

（取組例）・会員向けセミナーを開催する 等



2. 企業の参画を促す取組

1) 事務局

- ・TDMの取組に協力していただける企業を募集し、HP等で登録を受付 等

2) 登録した企業

- ・大会時の混雑の見通し等、大会運営情報を適宜受け取れる
- ・TDMプロジェクト運営側と直接やり取りができ、自社活動への影響の見通しや対策が立てやすい 等

3. アクション&レガシー ファイナルレポート

概要

組織委員会は、2016年7月に「アクション&レガシープラン2016」を策定、以後毎年更新。
2020年向けに、このプランで定めたレガシーコンセプトに基づいた各種アクションを実施。
アクションの成果やレガシーについて、大会後に「ファイナルレポート」として取りまとめる。

スケジュール

2018年度	2019年度				2020年度		
第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	大会後
専門委員会		アクション&レガシー プラン2019		専門委員会		東京2020大会	専門委員会(仮) アクション&レガシー ファイナルレポート

3. アクション&レガシー ファイナルレポート

全体構成

- ✓ はじめに
 会長・総長の挨拶等
- ✓ エグゼクティブサマリー
 第二章～第六章のサマリー（主な実績を網羅）
- ✓ 第一章 アクション&レガシーレポートについて
 目的等
- ✓ 第二章 スポーツ・健康
- ✓ 第三章 街づくり・持続可能性
- ✓ 第四章 文化・教育
- ✓ 第五章 経済・テクノロジー
- ✓ 第六章 復興・オールジャパン・世界への発信
- ✓ 第七章 東京2020参画プログラム
- ✓ 第八章 東京2020 NIPPONフェスティバルの概要

※参画プログラム一覧は、ホームページへの掲載をもって
かえる

第二章～第六章について

構成案は以下のとおり

- 基本的な考え方（導入）
- レガシーコンセプト
- アクション（主な実績、目玉プロジェクト含む）
- 成果
- 結び／委員長コラム

レガシー・レポーティング・フレームワークについて

2018年2月21日にIOCがレガシー・レポーティング・フレームワークへの取組について、以下の公表をしたことを受け、東京2020大会においてもIOCの方針に基づき、実施予定。

➤ これまでのOGI調査から、大会開催によるレガシーを把握するための新たな取組(レガシー・レポーティング・フレームワーク)及び従来からの取組である持続可能性に関する報告書へ移行すること。

・OGI調査(Olympic Games Impact Study)とは、オリンピック競技大会の開催が、開催都市や地域の環境・社会文化・経済に与える有形・無形の影響に関する調査のこと。

・レガシー・レポーティング・フレームワークとは、大会が開催都市に及ぼすメリットを把握することを目的とした枠組みのこと。

【基本方針】

レガシーフレームワークは、「大会が開催都市に及ぼすメリットの把握」を目的としているため、開催都市である東京都のレガシー創出に向けた取組から項目を抽出し、東京都と連携を図りながら、レガシーフレームワークを策定する。



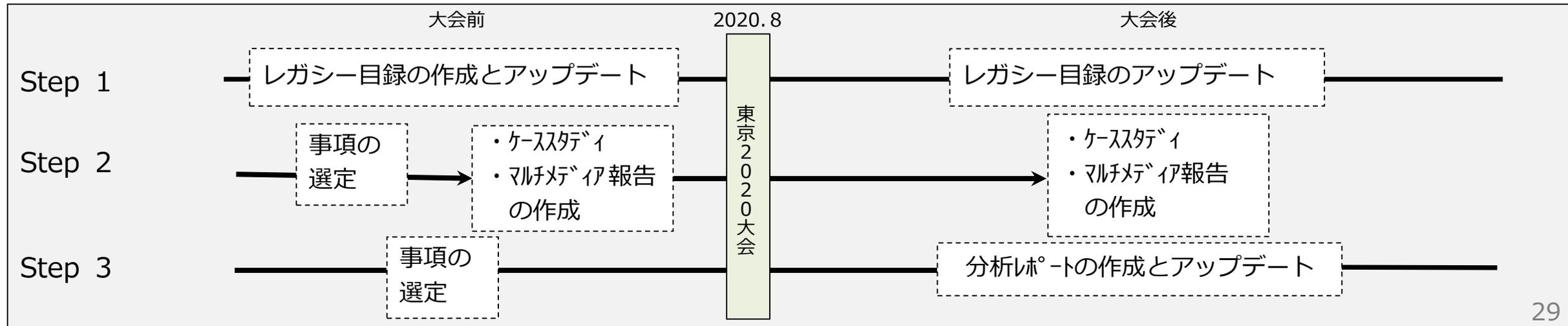
大会開催の短期的な効果、長期的な影響を把握し、大会のレガシーとして発信

おわりに

IOCが提示する概要

- 【Step 1】 ● レガシー目録の作成 –レガシーに関連する取組を記載–
- 【Step 2】 ● ケーススタディの実施、マルチメディアの活用
–Step 1のうち重要と思われる取組事項を抽出し、詳しく説明–
- 【Step 3】 ● 分析レポートの作成 –更に事項を絞り、変化の要因、大会との因果関係について詳細に分析–

スケジュール（※詳細は調整中）



みんなの輝き、つなげていこう。

Unity in Diversity



The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



The Worldwide Paralympic Partners



Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners



テーマ	経済			テクノロジー		
	コンセプト	課題	取組の方向性	コンセプト	課題	取組の方向性
ジャパン ブランド の復権	高性能経 済	生産性革命	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクションマッピングの規制緩和・ガイドライン改定等 ・顔認証による運営効率化 ・TDMによる交通マネジメント 	感動の共 有	最先端の映像伝達技術を駆使した魅力ある演出	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントでの活用 ・SNS等を使った新しい発信や新しい応援 等
		生活で実感できる高付加価値			多言語コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大会アプリ等の開発、活用
		高度な技術力・高品質な製品のアピール	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海地区でのパートナー等のショーケース 		スポーツとICTの融合	<ul style="list-style-type: none"> ・競技運営でのデジタル判定等の採用
	底力の発 揮	金融インフラ（技術）の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・大会でのキャッシュレス化等 	For All	先進的なバリアフリー技術のショーケース化	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットプロジェクトによる様々な場所での体験やサポート
		地方の魅力全開	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のホストタウンによる地域の魅力発信の取組等 		ロボットの活用	
		起業力・イノベーション力の開花	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の特産品を使ったライセンス商品開発等 		ロボットやICTを活用した優しくスマートな居住空間・都市空間	
	高齢化先 進国 への挑戦	多言語・バリアフリー対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大会アプリの開発 ・ロボット等による様々な対応 	高信頼・ 高品質 の安全	高信頼・高品質なサイバーセキュリティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・政府、行政と連携したセキュリティ体制の構築
		医療やケア・介助等のアピール			柔軟かつ強固な防災・防犯	
		多様な人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを初めとした様々な方の参画 		水素社会の構築	
						<ul style="list-style-type: none"> ・臨海地区でのパートナー等のショーケース



テクノロジーサービス局の取組み

(テクノロジー諮問委員会・提言書の内容に沿った活動報告)

平成31年3月19日

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
テクノロジーサービス局

テクノロジー諮問委員会による提言

- 諮問委員会では、**東京2020大会に向けたテクノロジー関連の具体的な施策案として、事務局が提示するたたき台をもとに、組織委員会の財政面での制約やマーケティング権利に関わる制約なども考慮しつつ、施策としての妥当性・実現方法、さらに発展させたアイデア、などを議論し、アクションの方向性を絞り込んで**頂きました。
- 全8回にわたる議論は昨年6月に、提言書の形で公表されました。本日はこの提言書の内容に沿って、現在までの組織委員会による準備状況を報告します。

テクノロジー諮問委員会・委員

分野	所属	氏名
経済情報	慶應義塾大学教授・常任理事	こくりょう じろう 國領 二郎
情報通信	東京大学先端科学技術研究センター教授	もりかわ ひろゆき 森川 博之
経営 コンサルティング	A.T. カーニー日本法人会長	うめざわ たかあき 梅澤 高明
ICT・メディア産業	野村総合研究所 ICT・メディア産業コンサルティング部 部長	くわづ こうたろう 桑津 浩太郎
コスト評価	EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 パートナー	みやち ひでとし 宮地 秀敏
メディア・コミュニケーション	早稲田大学文学学術院教授	たかはし としえ 高橋 利枝

諮問委員会・提言書のアジェンダ

(2018年6月28日公表)

第1章『最先端テクノロジーでなければ戦えない、人にやさしくなければ使う意味がない。』

- ・ これからの大会運営を変えていくテクノロジーとは？ **(大会運営の観点)**

第2章『時間も、空間も、飛び越えて応援します！』

- ・ ワクワク！ドキドキ！魅せるテクノロジー！ **(大会観戦の観点)**

第3章『大会のあとには、違う景色が待っている。』

- ・ 大会後のレガシーとして残るテクノロジーとは？ **(大会レガシーの観点)**

1. 大会運営の観点

- 大量の物品調達や人の移動・輸送を伴う大会運営業務、警備業務などにおいて、**最新のITを活用した運営の効率化・スマート化**は、組織委員会が取り組むべき最優先課題です。
- 東京大会として大事なポイントは、最先端の技術でも、**いかに人にやさしく、現場のボランティアや観客の悩みを解決できるか**、です。

【注】**赤太字**は、組織委員会が準備中・取り組み中のアクション

備
準

実
行

後
始
末

- **大量の物流・輸送をスマートにこなす**
 - 水素エネルギーや再生可能エネルギーの活用/**大量の交通データ分析に基づくきめ細かい渋滞予測**/関係者車両の迅速な最適配置など
- **現場ボランティアを支えるモバイル**
 - **モバイルデバイスを活用し状況を見える化**など
- **観客の快適をサポートするAI**
 - **ロボット・多言語翻訳によるフレンドリーな会場案内や競技解説**/**チャットボットによる迅速な問い合わせ応答**/トイレや売店の待ち時間予測など課題解決のためのAI活用など
- **会場の警備をサポートするテクノロジー**
 - **生体認証を活用した迅速・安全な関係者の入退場管理**/セキュリティカメラと画像処理技術による混雑度モニタリングなど
- **大量の物品調達の後始末は？**
 - 大会後の物品二次利用やオークション販売を支えるリユース支援プラットフォームなど

【取組み 1】 大会運営業務を支えるシステム

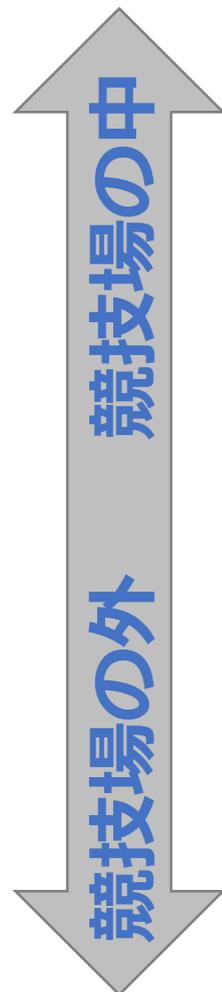
- 大会運営をスマート化するために、最新技術の採用だけでなく（むしろ）、『最適な業務フロー設計』『データモデル定義』『技術標準の策定』など、**組織全体としての業務や開発などに関するフレームワークの確立**を進めています。

カテゴリー	システム化するおもな業務
イベント オペレーション	<ul style="list-style-type: none">輸送車両管理、宿泊管理、受発注管理、配送管理、アクセディテーション（関係者認証）などセレモニー運営、スタッフ割当管理など
スポーツ オペレーション	<ul style="list-style-type: none">競技計測、審判判定、競技結果配信、競技ボランティア管理、会場の映像・音声配信などドーピング検体管理など
ファシリティ オペレーション	<ul style="list-style-type: none">ネットワーク監視、周波数割当管理など電力供給監視、予備電源切り替えなど会場構築プロジェクト管理、CAD図面管理など
ビジネス オペレーション	<ul style="list-style-type: none">ECサイト、チケット販売管理、CRMなど偽サイト監視、レピュテーションモニタリングなど

2. 大会観戦の観点

- 最新技術の活用之际には、**アスリートの最高のパフォーマンスを可視化するためのテクノロジー**としての観点が重要です。
- また、ソーシャルメディアのトレンドを捉え、**デジタルコミュニティにおける大会のポジティブな情報発信**を狙うべきです。

【注】**赤太字**は、組織委員会または大会関係組織が検討中・取組み中のアクション



• アスリートのパフォーマンスの見える化

- **パフォーマンスを測るセンサー技術や、審判の判定を支える新しい計測技術**
- **スタッツデータのわかりやすいビジュアル化**／VR・AR技術によるトップアスリートのパフォーマンス体験など

• 会場の興奮のシェア、世界中の応援の可視化

- 会場内の興奮を世界中に伝えるリッチコンテンツを使った**ソーシャルチャリング**／会場外の応援を会場内へフィードバックする**モバイルアプリ**／**アスリートからのSNS情報発信**を促す環境整備など
- 放送波に乗らないアスリートの活躍を**デジタルメディアやロボット技術**を活用して可視化など

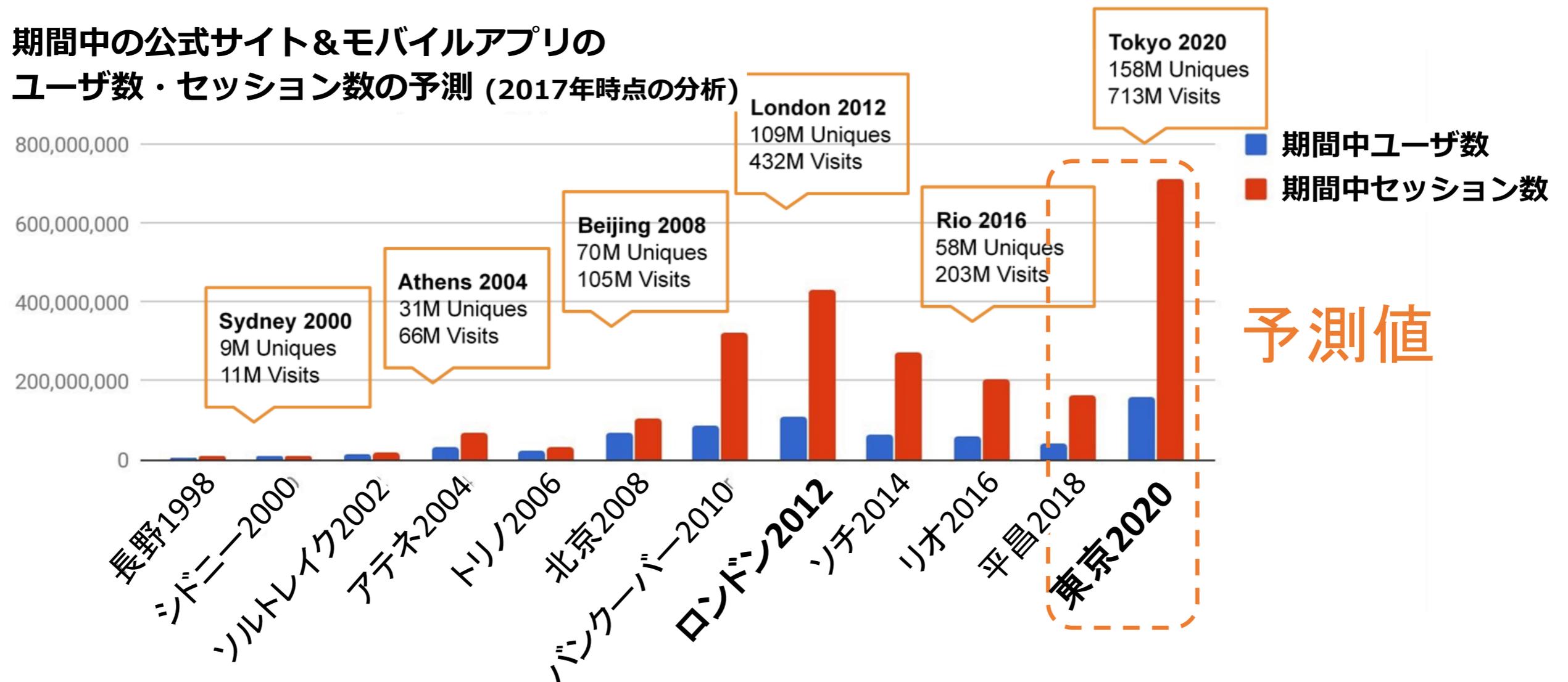
• デジタルコミュニティにおける情報発信

- 大会準備状況やボランティアプログラムなどの**SNS上での積極的な情報発信**／**学生コミュニティのリーダー、SNS上のインフルエンサー、大会で活躍したアスリート**などをよりオープンに巻き込んだ**自発的・ポジティブな情報発信**

(参考) 公式サイト&モバイルアプリへのアクセスの比較

- 『おそらくは**史上もっともインターネット経由でコンテンツがアクセスされる大会**になる』と予想されています。
 - 組織委員会の公式Webサイトへのアクセス状況をもとに、大会期間中 (Games-time) の公式サイトおよび公式アプリのユーザ数・セッション数をIOCが予測

期間中の公式サイト&モバイルアプリの
ユーザ数・セッション数の予測 (2017年時点の分析)



【出展】 IOCによる分析 (2017年時点) から

【取組み2】 大会公式モバイルアプリのチャレンジ

① すべての関連情報のハブ

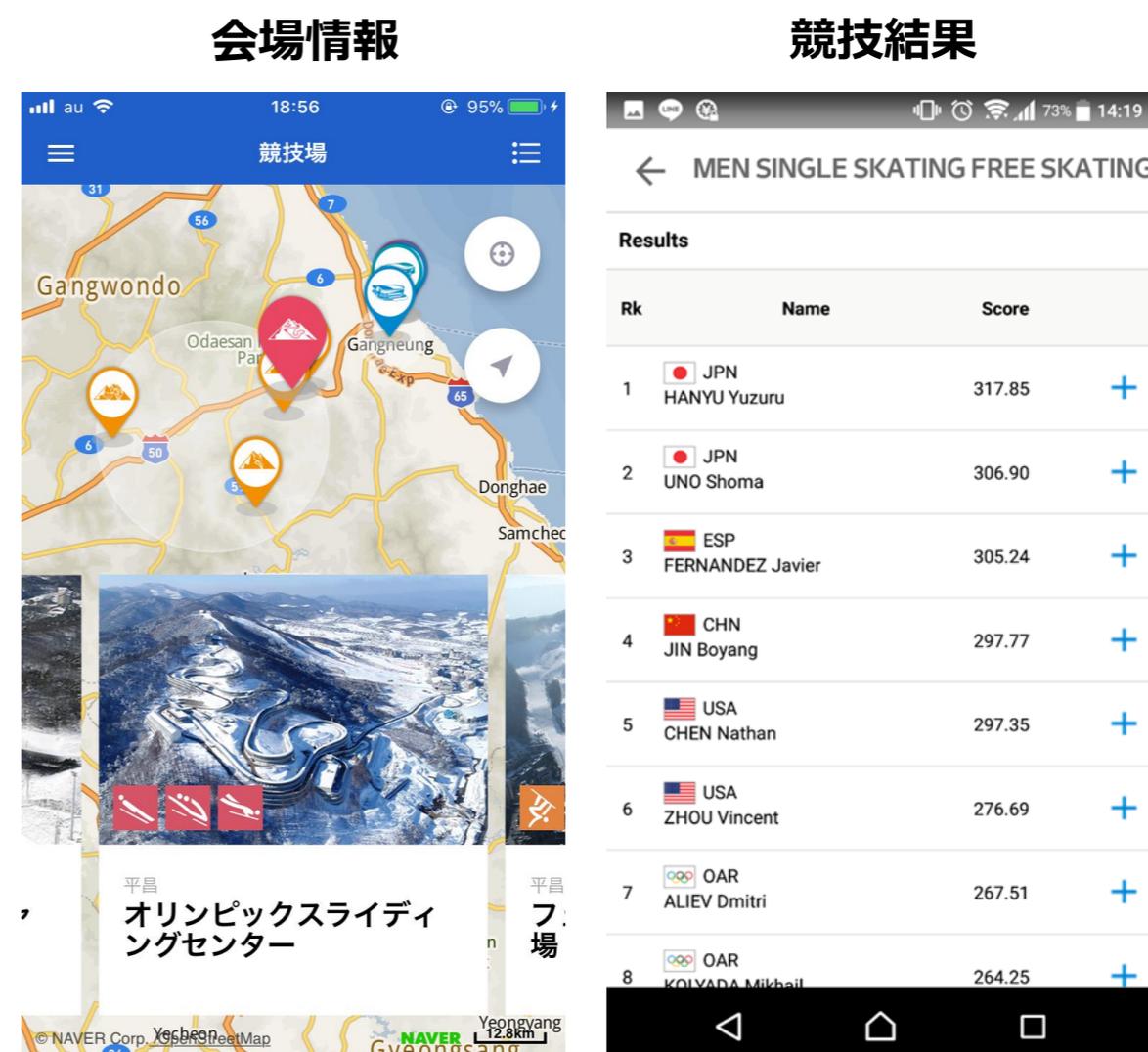
- 関連コンテンツが溢れかえる中で、わかりやすいガイドが重要。
- 公式情報だけでなく、ボランティアやアスリートからの情報発信、競技会場周辺の地域コミュニティにおける観光情報、なども。

② 使いやすい、クールな、ユーザインタフェース

- 普段使っていないアプリを、わざわざダウンロードして使っていたために、ユーザインタフェースがポイント。

③ ほかにはない魅力的なコンテンツ

- 大会マスコットを使ったナビゲーションやゲームなど、大会を盛りあげる“今だけコンテンツ”。



平昌2018大会の公式モバイルアプリ

3. 大会レガシーの観点

- 競技場のICT環境のようなハードウェアだけでなく、**テクノロジーを使いこなして醸成される文化的側面**としての**ソフトレガシー**も重要です。
- たとえば競技場のICT環境整備も、**スポーツツーリズム振興**や**防災拠点整備**といった文脈の中で語られるべきと考えます。
- 産業界から見た東京2020大会への期待に応えるためにも、**組織委員会**からの積極的な提案と情報発信を期待します。

【注】**赤太字**は、組織委員会または国内各機関が検討中・取組み中のアクション

• 競技場のICT環境

- **海外から来場する観客や選手にやさしい競技場のWi-Fi**や**デジタルサイネージ**の整備/**デジタルメディアでの地域情報発信**／防災拠点・避難場所としての通信環境の整備など

• オープン交通データの活用

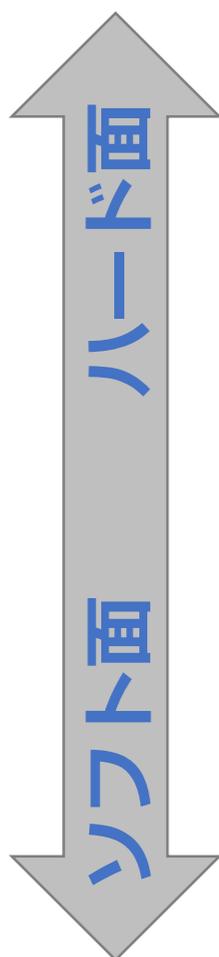
- **公共交通データ**を広く利用できるプラットフォーム整備/**先進的・実用的な渋滞予測アプリ**の開発・導入など

• サステナブルなバリアフリーマップ

- 車椅子やベビーカーにやさしいバリアフリー・デジタルマップ／同マップが**自発的・迅速に更新**されていくエコシステムの形成/**低コストでマップを自動作成できるツール**など

• 大会後のレガシープログラムへの継承

- **観戦者・ボランティアなどのデジタル記録（CRMデータ）**が、次のスポーツ振興プログラムや健康促進プログラムへ引き継がれる仕組みなど



【取組み3】若い世代の参画促進プロジェクト

- 東京2020アイディアソンVol.2 “大会観戦で日本中・世界中を熱狂させる新しい情報メディアのカタチを考える。”（平成30年3月25日開催）
- 『**観客用モバイルアプリの設計に、学生（大学生・高校生）のユーザ目線を取り入れること**』を目的としました。
 - 金賞（カザスポ）『顔認証技術を活用して、テレビ映像上のアスリートに関する情報を瞬時にスマホで入手するアプリ』
 - 実現性を組織委員会とともに継続検討中
- Vol.3としてアプリケーションコンテストの企画を準備中です。



東京2020アイディアソン Vol.2(平成30年3月25日開催)の様子

まとめ（提言書のまとめ）

『テクノロジー×インクルージョン』

- ロンドン大会ではスポーツと文化がもっと融合していました。大会をきっかけに、狭義のスポーツにとどまらない文化醸成、障がい者や外国人にやさしい社会、などを実現するために、テクノロジー（eスポーツ、情報保障、自動翻訳など）が貢献できる領域は広いと考えます。
- 日本では欧米社会とはやや異なり、ロボットを異物としてではなく仲間としてとらえる文化があります。**“人とテクノロジーとの共存”は、大会においても根底にあるメッセージ、フィロソフィー**であるべきと考えます。

『イノベーターな大会にするには、そこに至るまでのプロセスがイノベーターでなければならない』

- 世の中から参加型のアプリケーション開発を進められるように、組織委員会の活動に対してポジティブな評価を引き出せるように、**スキームをもっとオープンに**してはいかがでしょうか。



東京2020ロボットプロジェクト

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
イノベーション推進室

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。

2020年の東京大会は

すべての人が自己ベストを目指し (全員が自己ベスト)

一人ひとりが互いを認め合い (多様性と調和)

そして、未来につなげよう (未来への継承)

を3つの基本コンセプトとし、**史上最もイノベーティブで**
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

ビジョンを実現するためのイノベーションの視点

大会ビジョンの「世界にポジティブな改革をもたらす」ために、三つの視点で実現

視点①

スポーツの イノベーション

- ・ スポーツの新しい観方
- ・ スポーツの新しい楽しみ方
- ・ デジタル技術を使った判定



例) アーバンスポーツエリアやサーフィン会場でのフェスティバルなど従来の会場とは異なる観方 等

視点②

参画における イノベーション

- ・ 大会への新しい参画の仕方
- ・ 若者の新しい参画の枠組み



例) 小学生投票によるマスコット選定、全国の国民からの小型家電などによるメダル作成 等

視点③

社会の未来を変える イノベーション

- ・ 大会を契機としたバリアフリーな社会の構築
- ・ 持続可能性への配慮
- ・ 安心・安全な社会の整備



例) 大会関係者の入場における顔認証システムの導入、燃料電池自動車、自動運転 等

ロボットを活用したイノベーションの実施

ロボット

日本の誇るロボット技術を活用し、
各視点のイノベーションを実施・実現する



視点①

スポーツの
イノベーション

実現の方向性(案)

- ロボット×観戦支援
- ロボット×競技運営
- ・
- ・

視点②

参画における
イノベーション

実現の方向性(案)

- ロボット×大会イベント参加
- ロボット×作業支援
- ・
- ・

視点③

社会の未来を変える
イノベーション

実現の方向性(案)

- ロボット×バリアフリー
- ロボット×社会実装
- ・
- ・

東京2020ロボットプロジェクト

プロジェクトのねらい

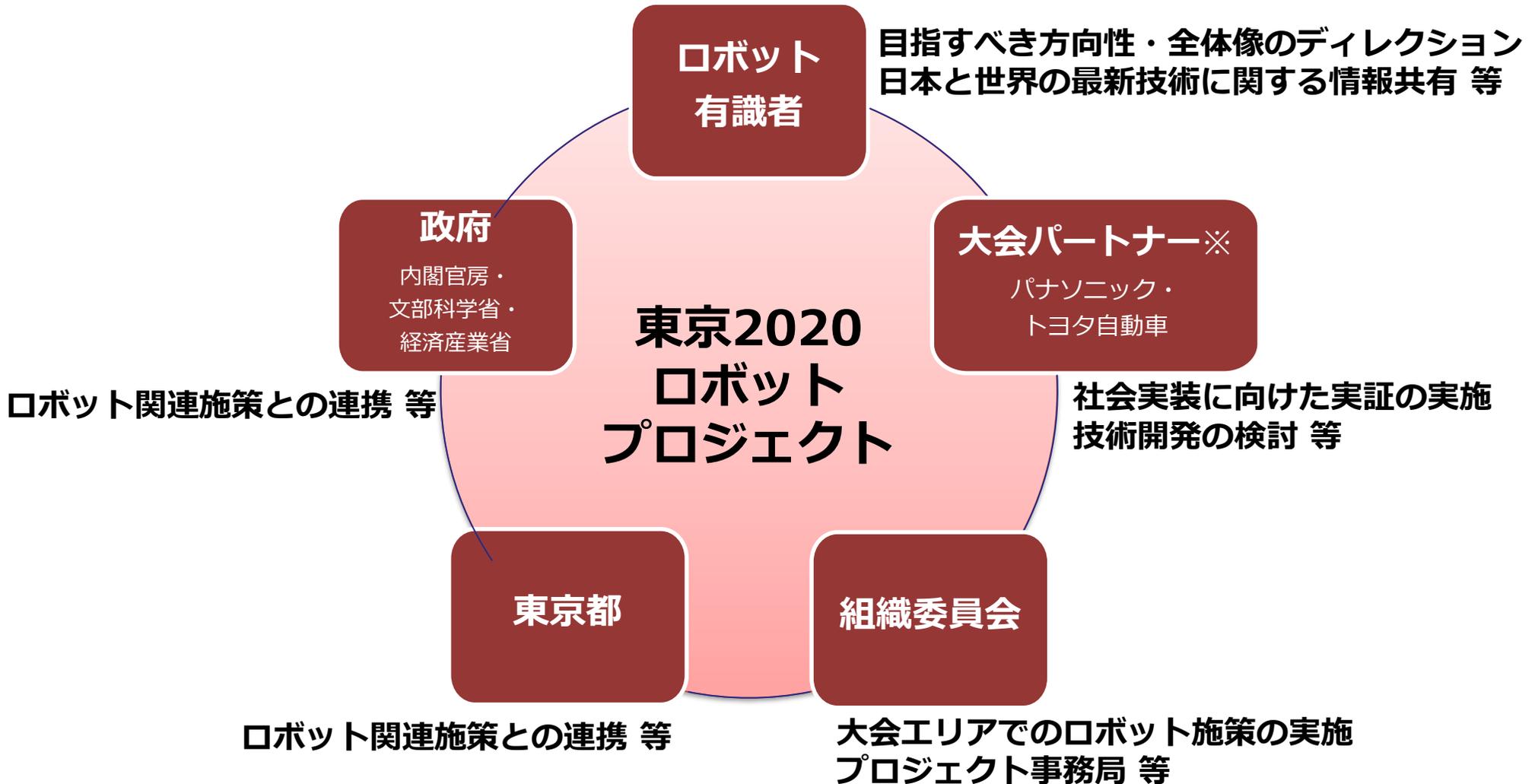
東京2020ロボットプロジェクト

- 世界中の人々が注目する東京2020大会開催中に、ロボットが様々な場面で人々に寄り添い、役に立つ姿を発信する
- 大会を契機としてロボットの社会実装を推進することにより、日本と世界にポジティブな未来を提示する



検討体制

プロジェクトの始動にあたり、様々なステークホルダーと連携を図るために体制を構築



※契約カテゴリー

パナソニック：＜パラリンピック＞パワーアシストスーツ

トヨタ自動車：＜オリンピック＞モビリティサポートロボット、＜パラリンピック＞モビリティサポートロボット、リハビリテーションロボット、ウェアブルロボット

ロボット有識者



ひるかわ ひろひさ

比留川 博久

- ・産業技術総合研究所
ロボットイノベーション研究センター 研究センター長
- ・東京2020ロボットプロジェクト リーダー



さとう ともまさ

佐藤 知正

- ・東京大学 名誉教授
- ・ワールドロボットサミット実行委員会 委員長

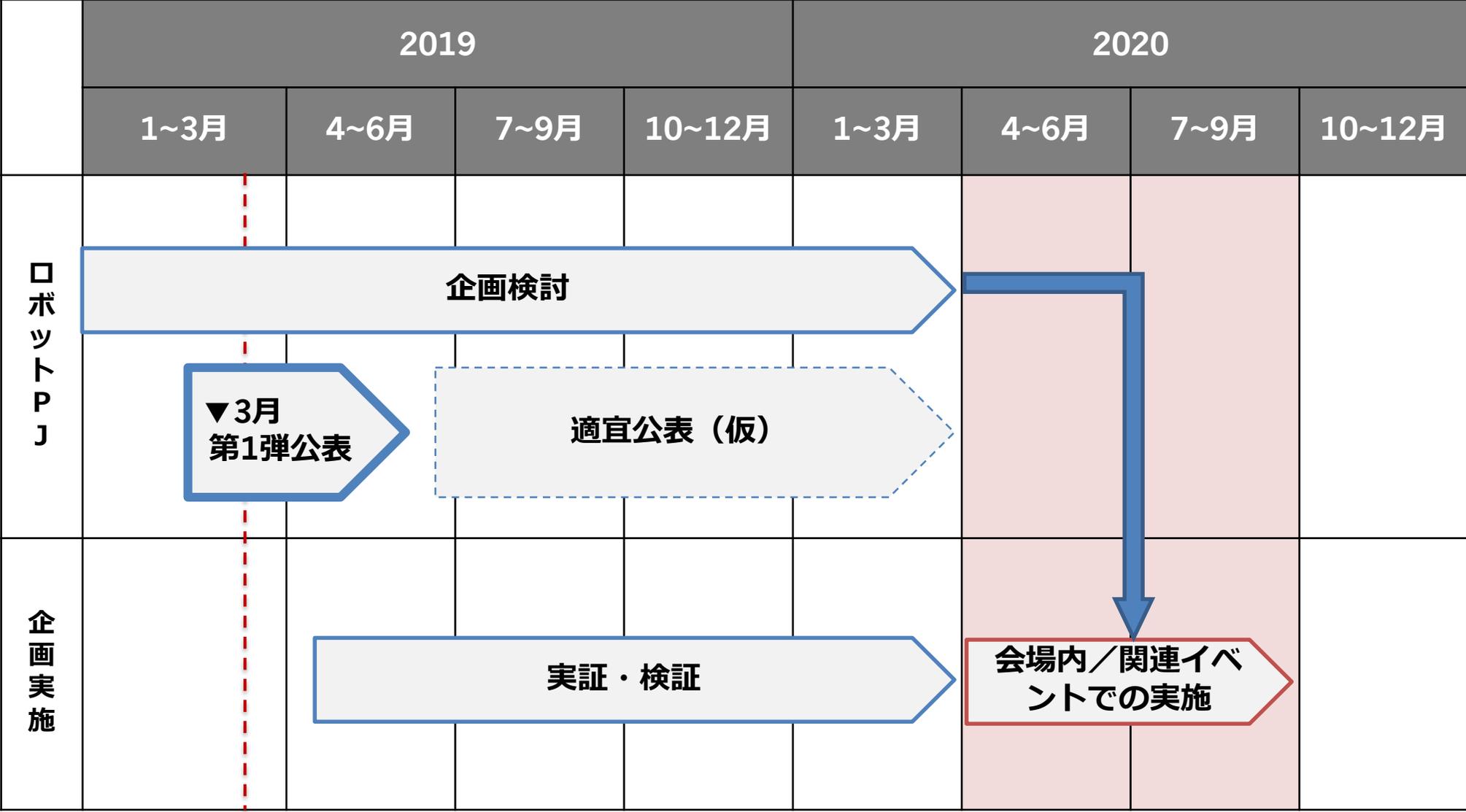


すぎやま まさし

杉山 将

- ・理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長
- ・東京大学 大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻 教授
- ・ユニバーサル未来社会推進協議会 副会長

スケジュール



企画①生活支援ロボットによる観戦サポート

生活支援ロボット

HSR (Human Support Robot)



16台を予定

DSR (Delivery Support Robot)



8-10台を予定



【サポート場所】

オリンピックスタジアム 車いす席 (一部※1)

【サービス概要】

ロボットによる物品の運搬や観戦席への誘導を通じ、
車いすのお客様のストレスフリーな入退場・観戦をサポート

【対象競技・席数】

陸上競技 (オリンピック・パラリンピック)
各セッション 16組 32席 (予定※2)

※1 対象席については別途アナウンス予定 ※2 詳細な席数については別途アナウンス予定

企画②パワーアシストスーツ

【活用シーン】

バックヤード
等での物品搬送



選手やチームの荷積み・運搬



パワーアシストスーツ（腰型）

【サポート概要】

大会期間中の**運営作業スタッフの負担を軽減**するため、パワーアシストスーツを活用。重量のある飲食物、廃棄物等の運搬業務及び大会関係者の荷物をバスに積み入れる際等に活用。

【活用場所】

競技会場、大会関連施設等

【機能・特徴】

パワフルなモーターの力で、重量物を持った時にかかる腰部への負担を軽減。

【予定台数】

20台程度（予定）

- 榎田竜路委員の講義を受講し、認知開発力を学んだ上で、相手国であるラオス人民民主共和国を迎え入れるポスターと、各ホストタウンの方達に向けた、地域の魅力を発信する5分の映像作品作りにチャレンジし、KWN日本コンテストへ作品提出する取組。（福島県飯館村立飯館中学校は中学生部門で入賞）
- 今回は、徳島県立徳島商業高等学校、岩手県野田村立野田中学校、福島県飯館村立飯館中学校の3校で実施。
- 2月28日 ホストタウンサミットで福島県飯館村立飯館中学校が映像制作活動と作品を上映
- 完成した作品は今後内閣官房から自治体（市役所等）と連携しHPで公開を予定

《3校の取り組みとコンテスト結果》



KWN 中学生・高校生向け特別ワークショップ
Sharing The Dream 2020
～知ろう！伝えよう！動画に込めて！～

★復興『ありがとう』ホストタウン校の取り組み

- ◇場 所：福島県飯館村立飯館中学校
- ◇参加者：中学1年生～2年生 10名
- ◇応援担当国・地域：ラオス人民民主共和国



作品名：7 years ～大和魂～ ★入賞
<https://youtu.be/Pws7cgDAhYw>



ホストタウンになっていても、選手が来るかどうかはわかりませんでした。そこでラオスの人達に飯館村の特色や震災後の頑張りを伝え「飯館村はいいところなんだなあ」としてもらい、少しでも多くの選手が行きたいと思えるような動画を作りました。

- ◇場 所：岩手県野田村立野田中学校
- ◇参加者：中学2年生 30名
- ◇応援担当国・地域：台湾



作品名：いつもの野田村
https://youtu.be/k9ob0JOVV_k



野田村は国内外各地から義援金や支援物資の提供応援メッセージ等を頂き日常を取り戻しつつあります。野田村の何気ない日常風景や特産物や、働く素敵な方々へのインタビューを通して、野田村の現在を発信できればと思っています。

★ホストタウン校の取り組み

- ◇場 所：徳島県立徳島商業高等学校
- ◇参加者：高校1年生～2年生 9名
- ◇応援担当国・地域：カンボジア



作品名：友好の軌跡
https://youtu.be/BoGxgbH-z_A



外国に興味があるが言語の壁で一步を踏み出せない私達は、色々な方法の交流を通じて学び、手を取り合いながらの活動が認められたり、一度やってみないとわからないことだらけ。失敗を恐れずに色々な事に挑戦してみたいという思いで制作しました。

(2018年12月時点)		2018年度		2019年度				2020年度		
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～3月
主な行事 ▼調整委員会 (年2回開催予定) 【7/24】オリ1年前 ▼【3/12】オリ500日前 ▼【4/13】パラ500日前								▼【9/20～11/2】ラグビーワールドカップ ▼【8/25】パラ1年前 ▼【1/10～22予定】ユースオリンピック冬季大会 (ロシア) ▼【4/15】オリ100日前 ▼【5/17】パラ100日前		
◆競技関係 ・2018年7月にオリンピック、9月にパラリンピックのセッションスケジュールを公表。 ・2020年春頃に詳細な進行表を決定。		▼オリ【年末頃】イベントスケジュール決定 ▼パラ【春頃】イベントスケジュール決定		詳細競技計画検討				▼【春頃】DCAS(競技運営のための詳細な進行表)決定		
◆テストイベント ・2018年10月にテストイベントのスケジュール第1弾、11月に第2弾を公表。 ・2019年6月より順次実施予定。				Wave① Wave② Wave③						
◆聖火リレー／入賞メダル ・2019年には聖火リレーのルートやランナー等について公表予定。 ・2019年の大会1年前にメダルデザイン発表予定。		【継続中】都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト		▼【7月頃】オリ入賞メダルデザイン発表 ▼【8月頃】パラ入賞メダルデザイン発表 【2019年中】トーチ・ルート、ランナーについて公表				【3/26～7/24】聖火リレー (オリ) 【オリ・パラ間】聖火リレー(パラ)		
◆ボランティア ・2018年9月から応募フォームにて募集を開始。12月19日9時半時点で15万3012人が応募完了。 ・2019年2月からオリエンテーションを実施し、2020年3月以降、役割・会場を通知		▼【12月21日17時】ボランティア応募締め切り		▼【1月】ネーミング発表 ▼【2月～7月】オリエンテーション				▼【3月～】役割・会場の通知		
◆大会サービス (輸送・警備・飲食等) ・選手・観客等の輸送ルート (道路・公共交通) 及びその運用について精緻化を図る。 ・安心、安全に加え、円滑な入場を実現するため、大会史上初となる顔認証システム導入予定。		輸送連絡調整会議、交通輸送技術検討会等にて引き続き、輸送ルート等を検討・調整		▼【12月】警備ガイドライン完成 ▼【1月頃】各競技会場医療責任者指名 ▼【4月頃】持続可能性報告書V1提出				▼【春頃】会場運営計画V2を策定 ▼【年末頃】輸送運営計画V2を策定 ▼【年末頃】飲食メニュー決定 ▼【3月頃】持続可能性報告書V2提出 ▼【大会前】全自主警備計画の完成 GSCC(大会警備本部)の運用開始 ▼【大会期間中】持続可能性報告書V3提出		
◆チケット ・2018年7月よりチケット事前登録キャンペーンを実施中。 ・2019年春頃よりオリンピック、夏頃よりパラリンピックの一般販売を開始予定。		関係者向けチケット申込受付開始		【春頃から】一般向けチケット販売						
◆参画推進等 ・2020年4月から「東京2020 NIPPONフェスティバル」を全国展開予定。 ・2018年10月東京2020オリンピック公式映画の監督に河瀬直美さんが就任。 ・大会史上初めて、国際連合とSDGs推進に向けた基本合意書を締結。		▼【11月】国連とSDGs推進に向けた基本合意書を署名		▼【500日前】コアグラフィックス展開 ▼【春頃】大会ルック発表 ▼【夏頃】大会モットー発表				▼【2019年度中】スペクタキュラー設置 ▼【春頃】シティドレッシング開始 ▼【春頃】都市ルック開始 【大会期間】ライブサイト		
◆競技会場 (一般的なスケジュール) ・契約締結後、実施設計、仮設オーバーレイ工事を実施。		実施設計		競技会場・IBC/MPCの仮設オーバーレイ工事				▼オリンピックスタジアム完成		
◆選手村 ・2018年12月に、飲食提供事業者が決定。 ・「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」を実施中。		▼【12月】飲食事業者が決定		▼【春頃】選手村運営計画決定				▼【大会期間 7月～9月】選手村開村、閉村		
◆インフラ整備				宿泊棟内装や仮設施設的设计・工事				撤収工事 選手村改修工事		